

令和3年度「あいちのいちじくコンテスト」開催 県内のイチジク一堂に、自慢のイチジク競う



愛知県西尾市で「あいちのいちじくコンテスト」を開催します！

《西尾市での開催は2017年以来4年ぶり》

愛知県とJAあいち経済連、愛知県果樹振興会は8月31日、「あいちのいちじくコンテスト」をJA西三河本店で開きます。栽培技術の向上と消費拡大を図るために実施するもので、コンテストには県内の生産者より「柘井ドーフィン」や「サマーレッド」が出品され、外観・糖度・品質などを審査します(昨年の出品数:234点)。

コンテスト終了後にはイオン岡崎南店で「あいちのいちじくフェア」を開催し、出品物の一部を販売します。

【開催日】8月31日(火)



【時間】9:00~12:20

【場所】JA西三河本店5階 大ホール

《審査基準》

- ・外観(玉ぞろい、病害虫、傷、形、色沢など)
- ・糖度(糖度計による測定)
- ・品質(果肉の状態、食味)

※本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般公開を中止します。



【時間】15:30~17:30

【場所】イオン岡崎南店 1階食品売場入口
(岡崎市戸崎町外山38-5)

※イチジクが売り切れ次第終了します。

※取材を希望される報道機関の方は、JA西三河企画課の尾形までご連絡のほどよろしくお願いいたします。

▶ 審査風景
(最高糖度・平均糖度も確認します)



◀ 即売会のようす

愛知県産イチジクが多く出回る
7~10月の毎月19日は、
「愛知のいちじくの日」



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河(西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当:尾形怜美

TEL:0563-56-5214 担当者携帯:070-1414-6818

HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

全国トップクラスのブランド「西三河のいちじく」

全国有数のイチジク産地、西三河地域

愛知県は2,000トンを超える全国でもトップクラスのイチジク産地で、なかでも西尾市をはじめとした西三河地域は生産の中心地となっています。

昭和40年代より、水田転換作物としてイチジク栽培が本格化。西尾市のイチジク生産者で組織する「JA西三河いちじく部会」は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河のイチジク生産部会で組織する「西三河いちじく部会」の一員として、**「西三河のいちじく」ブランドを確立**しています。



当産地は温暖な気候と矢作川のもたらす実り豊かな大地からイチジク栽培に適しており、ハウス栽培では4月～8月上旬まで、露地栽培では7月下旬～11月上旬までと長期にわたり生産しています。

● 6次産業化で地元農産物をPR



JA西三河オリジナル加工品

「いちじくジャム」「いちじくゼリー」



JAでは6次産業化にも力を入れており、西尾市産の農産物を使用した独自の加工品を取り扱っています。ラインナップは西三河のブランド米「矢作の恵」を使用したポン菓子や、生産部会とコラボした「赤美味ミニトマトジュース」など**全15種**。

加工品を通じて地元農産物の魅力を発信し、農家所得向上につなげています。

【産地情報】

生産者部会の名称：JA西三河いちじく部会（三浦達義部会長）

部会員数：50人 耕作面積：約8.75㍏

生産量：168.2㍏（ハウス15.6㍏・露地152.6㍏） 出荷品種：「柘井ドーフィン」

販売額：1億5,000万円（露地・ハウス合計）

出荷時期：（ハウス）4月～8月上旬（露地）7月下旬～11月上旬

出荷先：主に中京市場・京浜市場

流通：「西三河いちじく部会※」を通し、4 JA共販で京浜地域（60%）・中京地域（25%）・北陸地域（15%）

※ JA西三河いちじく部会は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河の生産部会とともに「西三河いちじく部会」を組織しています。

西三河いちじく部会の生産量：666㍏（2020年度）

全国の出荷量：11,861㍏

愛知県の出荷量1,997㍏（全国2位）（1位和歌山県：2,178㍏、3位大阪府1,367㍏）

【データ参照】e-Stat 平成30年産特産果樹生産動態等調査